

小学	部	【	音楽	】	科	授業実践研究フレームシート
----	---	---	----	---	---	---------------

教科・科目・授業名	音楽	指導期間	9 月 13 日 ~ 10 月 12 日
対象児童生徒	小学 部 6 年 重複(B2類型)	学級	指導者 神原

1 目標（何ができるようになるか）			
①	単元で目指す「できた」	目標レベルに達成し、歌や器楽・手話表現すること	
②	使用教科書・知的の段階	音楽(小学校知的2段階(3)打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。	
③	働かせる教科の「見方・考え方」	「見方考え方」の具体的意味	
	音楽的な見方・考え方	楽器を練習する前に、歌の歴史や楽器の面白さについて興味関心をもたせる。また楽器の特性を知り、強弱によって表現が変化することも理解させる。	
④	将来・日常の生活との関連 卒業後や日常にどう活かせるか 繋がるか	歌や器楽に関心をもつことで、余暇活動の充実につながると思う。	
⑤ 単元の観点別目標			
	観点	知識・技能	両手の協応を高める楽器や音階、手話の表現方法を理解することができる。
		思考・判断・表現	歌や楽器や表現方法を理解して、音の大小・強弱・速度に注意して歌唱・表現することができる。
		主体的態度	リズムにあわせて意欲的に歌唱したり、表現したりすることができる。
⑥	単元で目指す「基礎力」	行動力	プラス思考 柔軟性

教材観

2 単元内容（何を学ぶか）			
①	単元・題材名	歌・楽器・手を使って音楽を楽しもう	
②	単元・題材の概要	・ソーラン節(歌唱) ・ソーラン節(器楽) ・ビリーブ(手話表現)	
③	横断・関連する教科等	音楽	縦断する学部・学年 4・5年程度
④	教科等との横断、学部の縦断の具体的な仕方	音楽	
⑤ 横断で育成する力の視点(※○か―か入れる※基礎力や要領のキーワードで選ぶ)			
	八養版「社会人基礎力」	○	行動力
	教科の枠組みを踏まえた資質能力	―	思考・判断・表現
	学習の基盤となる資質能力	○	問題発見・解決能力
	現代的諸課題に対応する資質能力	―	
⑥	縦断で育成するキャリアの視点	・道徳及び自立活動と合わせて指導を行っていく。	

3 指導の工夫（どのように学ぶか）		
① 深い学びに向かう視点での工夫・改善		
②	「主体的学び」への工夫	器楽演奏を理解させるために、叩く場所の色分けするなど理解しやすい工夫
	「対話的学び」への工夫	抑揚や言葉の強弱の確認をすることで、学習の目的意識をはっきりもたせる。困難な取り組みにもあきらめないよう、良い場面では賞賛する。
	「深い学び」への工夫	リズムよく叩く、又は手話発表するための工夫を、姿勢や手さばき方を通して理解させる。
②	「見方・考え方」を働かせる場面とそこに向かう過程	歌を歌う以外にも、楽器を叩いたり手話で伝えたりすることで音楽に親しむ方法がある。取り組み過程で、成功体験を増やし音楽に興味・関心をもって意欲的に取り組む場面を設定する。
③	「できた」に向かう具体的手立てとその過程	印の通りに太鼓を叩くことや、手話を通して歌と楽器・手話がリズムよく表現できるように、スローで歌いながら練習を行う。
④	言語活動充実への工夫	疑問点がある場面では「どうしましたか？」などの問いかけをして自発的に発言できる場面を設定する。

指導観

指導観

⑤	情報教材・機器の活用能力育成の工夫	音楽CD・DVDなどを活用しながら、学習の理解につなげていく。
⑥	見通し・振り返りへの工夫	練習する期日や発表日を提示して、目標意識を高めさせる。
⑦	体験活動の工夫	説明を端的にして、器楽演奏・手話歌の取り組む時間を多く設定する。
⑧	自主的・自発的学びへの工夫	良くなるための改善点を説明し、成功体験を増やししながら自発的な学びにつなげていく。
⑨	重点・自立活動の指導との関連を図る工夫	・各授業でのアドバイスや賞賛における、児童との信頼関係の構築。 ・音楽への興味・関心を引くための、題材設定。

4 発達への支援や配慮・指導方法や指導体制の工夫(どのように支援するか)		
①	知的発達段階や認知特性に対して	学習の定着が図られていないまま、次へと進んでしまう傾向があるため進行具合を図りながら学習を進めていく。
②	身体・病状に対して	状況に応じて、どっちもクリップや机クッションなどを準備して学習しやすい環境をつくる。

5 授業で活用する教材・資源(何が必要か)		
①	人的教材・資源	児童1名であるが、合奏を行うために教員と2名で行う。
②	物的教材・資源	楽譜、譜面台、大太鼓、クッション、DVD
③	環境的教材・資源	音楽室

6 評価(何が身についたか)		
① 評価規準		
観点	知識・技能	目で見えたものを両手で表現する協応動作を高める楽器や手話表現を理解することができたか。
	思考・判断・表現	楽器や手話を理解して、音の大小・強弱・速度に注意して楽器を鳴らす・表現することができたか。
	主体的態度	リズムにあわせて意欲的に楽器を弾いたり、手話表現することができたか。
② 評価方法		参観日での発表を通して評価を行う。
③ 評価方法の工夫		緊張を与えないように、落ち着いたタイミングで発表をスタートさせる。
④ 「できた」かどうか		学習した内容を習得したかどうかではなく、練習通りに表現できたかどうかについて評価する。
⑤ 児童生徒への評価(達成段階・変容の状況)		
観点	知識・技能	曲の特徴や両手の協応を高める楽器、リズム、和音を理解することができたか。
	思考・判断・表現	楽器や音階を理解して、音の大小・強弱・速度に注意して楽器を鳴らすことができたか。
	主体的態度	意欲的に歌や楽器、表現などに取り組むことができたか。
⑥ 教師側評価(指導の目標や内容、指導方法の適切さ)		
観点	知識・技能	曲の特徴や、リズム、表現についての基本的な知識や技能を指導することができたか。
	思考・判断・表現	歌の表現やたたくリズム、表現方法についてアドバイスしたことを引き出すことができたか。
	主体的態度	歌や太鼓、表現など適切な題材を設定し、意欲的に取り組ませることができたか。

7 次に向けた改善点		
・どの単元においても、興味・関心を引く単元を設定する必要がある。単元内容においても、児童の学力に相当と考えられる内容を選択して、主体的・意欲的に授業に取り組む事が出来るように授業内容を設定していく。		

指導観